

## 株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂7-10-11 電話 0120-232-711 (通話料無料)
[手続き書類のご請求方法]	音声自動応答電話によるご請求 0120-244-479 (通話料無料) インターネットによるダウンロード <a href="http://www.tr.mufg.jp/daikou/">http://www.tr.mufg.jp/daikou/</a>
上場金融商品取引所 公告の方法	東京証券取引所市場第1部 電子公告により行う 公告掲載URL <a href="http://www.aspir.co.jp/koukoku/6412/6412.html">http://www.aspir.co.jp/koukoku/6412/6412.html</a> (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じた時には、日本経済新聞に公告いたします。)

### ■お知らせ

#### 1. 株券電子化によるご注意

- (1) 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、単元未満株式等の買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- (2) 配当金の口座振込のご指定につきましては、お手続きは配当金振込指定書を各口座管理機関を経由してお届けいただくこととなります。従来同封いたしました当社専用の「配当金振込指定書」は同封を取りやめしております。振込指定のお手続きにつきましては詳しくは各口座管理機関にお問合せください。
- (3) 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

#### 2. 配当金計算書について

配当金の口座振込をご指定の方と同様に、「配当金領収証」により配当金をお受取りになれる株主様宛にも「配当金計算書」を同封いたしております。配当金をお受取りになった後の配当金額のご確認や確定申告の資料としてご利用いただけます。

## 株主の皆様の声をお聞かせください

当社では、株主の皆様の声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

- アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。



ご回答いただいた方の中から抽選で10名様に「セッターメカラジオコン」を差し上げさせていただきます。

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

<http://www.e-kabunushi.com>  
アクセスコード 6412

いいかぶ

検索

Yahoo!, MSN, exciteのサイト内にある検索窓に、いいかぶと4文字入れて検索してください。



空メールによりURL自動返信

kabu@wjim.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。



携帯電話からもアクセスできます

QRコード読み取り機能のついた携帯電話をお使いの方は、右のQRコードからもアクセスできます。



※本アンケートは、株式会社エーツメディアの提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。(株式会社エーツメディアについての詳細 <http://www.a2media.co.jp>)  
※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます。事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ「e-株主リサーチ事務局」TEL:03-5777-3900(平日 10:00~17:30) MAIL:info@e-kabunushi.com



HEIWA INTERIM BUSINESS REPORT 2010

第42期 中間報告書 2009年4月1日～2009年9月30日

「新開発プロセスの成果が徐々に表れてきました。  
これにより、充実したラインナップを実現しています。」

Question 1

当第2四半期の  
事業環境はいかがでしたか？



代表取締役社長 石原保寿

当第2四半期における国内経済は、世界的な金融市場の混乱による景気後退の影響が長期化し、企業収益の大幅な減少、設備投資の停滞および雇用情勢の悪化などにより、依然として厳しい状況が続いております。

一方、当社グループを取り巻く遊技機業界の動向は、近年、遊技参加人口の減少傾向が継続しておりましたが、財団法人日本生産性本部の発行する「レジャー白書2009」によれば、2008年の遊技参加人口は前年比9.0%増の1,580万人と増加に転じました。これは、パチンコホールにおきまして低貸玉営業を実施する店舗が増加してきたことや、手軽に安く遊べるタイプの遊技機が充実したことにより、新規ユーザー、スリープユーザーの掘り起こしに繋がり、遊技参加人口を押し上げたものと推測されます。

しかし、パチンコホールの経営環境をみると、遊技参加人口の増加等があるものの、遊技機の導入サイクルの短縮などによる設備投資が負担となり、中小規模店においては倒産や廃業を余儀なくされ、店舗数の減少は緩やかながらも続いております。その一方で、1店舗当たりの遊技機設置台数が増加するなど、店舗の大型

図1 パチンコ機市場の動向

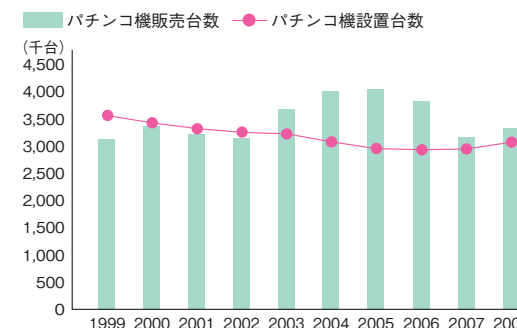
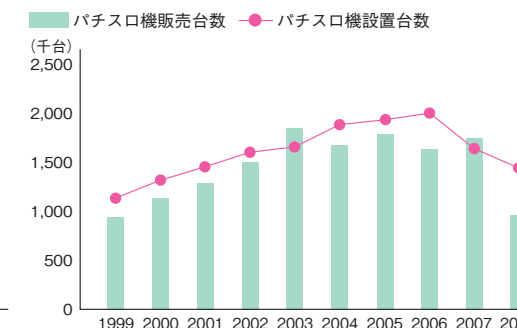


図2 パチスロ機市場の動向



化と寡占化で、パチンコホールの二極分化がさらに進行している状況であります。

また、市場規模(2008年)については、低貸玉営業の普及により、前年に比べ減少幅は縮小しているものの、前年比5.5%減の21.7兆円となっております。2003年の29.6兆円をピークに5年連続で減少しており、市場の本格的な回復には至っておりません。

Question 2

当第2四半期の業績については  
いかがでしょうか？

当第2四半期において当社グループでは、パチンコ機事業におきまして「石原裕次郎～嵐を呼ぶ男～」 「新お天気スタジオ」など計3シリーズを発売し、販売台数実績は52千台、売上高は15,430百万円となりました。パチスロ機事業におきましては、「めぞん一刻～あなたに会えて、本当によかった～」など計2機種を発売し、販売台数実績は21千台、売上高は5,922百万円となりました。また、

その他事業として、情報配信サービスなどを行い、売上高は394百万円となりました。

その結果、当第2四半期における売上高は21,746百万円となりました。利益面におきましては、売上高の減少に伴い、1,334百万円の営業損失となりました。経常利益は営業外収益として「負ののれん償却額」4,301百万円を計上したため、2,866百万円となりました。四半期純利益は、2009年8月28日付「当社子会社における希望退職者募集に関するお知らせ」にて公表いたしましたとおり、当社子会社である株式会社オリンピアにおいて希望退職を実施したため特別損失として「特別退職金」154百万円を計上し、2,966百万円となりました。

当第2四半期においては、当社グループの主力事業であるパチンコ機・パチスロ機事業において、当第2四半期までに投入を予定していたパチンコ機1シリーズ、パチスロ機1機種、それぞれの販売を第3四半期以降に見送ったことにより、当初予想を下回る結果となり、株主の皆様にはご心配、ご迷惑をおかけする内容になりました。

Question 3

株主の皆様への  
メッセージをお願いいたします。

先に述べましたとおり、当社グループを取り巻くパチンコ機・パチスロ機市場は厳しい環境が続いております。

そのような中、平和・オリンピアの統合以降、「開発プロセスおよび手法の見直し」の施策を行ってまいりましたが、その新開発プロセスの成果は徐々に表れてきており、完成度の高い機種を以前よりも短い期間で開発できるようになってきております。その結果、第3四半期以降については、充実したラインナップ構成を実現しております。

また、当社は2009年10月19日付「会社分割による当社子会社の一部事業の承継に関するお知らせ」にて公表いたしましたとおり、2009年12月1日を効力発生日とした株式会社オリンピアを分割会社とし、当社を承継会社とする吸収分割契約を締結いたしました。

これは、今後メーカー間の競争がますます激化してくることを踏まえ、当社グループのパチンコ機・パチスロ機事業の開発・製造・販売における最適な人員配置・業務体制を再構築し、強化していくことを目的としております。

特に、営業・販売部門におきましては、両社の営業拠点および営業活動を当社に集約し、より効率的な販売体制とすることにより販



売力の強化を実現してまいります。

さて、利益配分についてですが、研究開発力への投資、設備投資、情報化投資などを積極的に実施することで企業価値の増大を図りながら、株主の皆様への還元を安定的、継続的に充実させることを利益配分の基本方針としております。

配当につきましては、中間配当は1株につき25円といたしました。また、通年で1株当たり50円を予定しております。

株主の皆様におかれましては、引き続き変わらぬご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。

パチンコ機事業

市場の概況

当第2四半期のパチンコ市場におきましては、依然として厳しい状況が続いているものの、パチンコホールにおける低貸玉営業の推進や、多様な出玉性能および著名な著作権を使用した遊技機の供給等により市場が活性化し、遊技参加人口が増加する等、比較的良好な環境を維持しています。

当社グループの状況

当第2四半期のパチンコ機事業におきまして当社グループは、「石原裕次郎～嵐を呼ぶ男～」 「新お天気スタジオ」 「及川奈央のフルーツキャンダル」の計3シリーズを発売し、販売台数実績は52千台、売上高は15,430百万円と計画を下回ることとなりました。

これは、当第2四半期までに投入を予定していたパチンコ機1シリーズの投入時期を第3四半期以降に見送ったことによるものであります。

パチスロ機事業

市場の概況

当第2四半期のパチスロ市場におきましては、2008年3月にパチスロ機規則の解釈基準が一部緩和されたことにより、各遊技機メーカーより新規性のあるゲーム性能を有した遊技機の販売が積極的に行われました。しかし、パチスロ5号機がいまだにパチスロユーザーに支持されていないため、ホールにおける新機種導入の基準がより厳しくなっており、依然として市場の本格的な回復には至っておりません。

当社グループの状況

当第2四半期のパチスロ機事業におきまして当社グループは、「めぞん一刻～あなたに会えて、本当によかった～」など計2機種を発売し、販売台数実績は21千台、売上高は5,922百万円と計画を下回ることとなりました。

これは、当第2四半期までに投入を予定していたパチスロ機1機種の投入時期を第3四半期以降に見送ったことによるものであります。

その他事業

当事業は、情報配信サービス等によるものであります。当事業における売上高は394百万円となりました。



特集:『タイムボカンシリーズ CRヤッターマン 最新作』開発スタッフ座談会



新しい開発スタイルを武器にして、こだわりをカタチに。スタッフが楽しみながら開発したからこそ、ユーザーに本当に楽しんでいただけるパチンコ機が生まれた。



当社とオリンピアが経営統合後にスタートしたプロジェクト『タイムボカンシリーズ CRヤッターマン 最新作(以下ヤッターマン)』が、12月いよいよパチンコホールに登場します。

2001年の『CRヤッターマン』発表以来、パチンコ機、パチスロ機通算第6弾となる本作は、発売前からパチンコホールやユーザーの皆様から大きな注目を集めています。

この『ヤッターマン』の開発では、さまざまな新しい試みが実践され、効果をあげるなど、経営統合の成果が表れました。

今回は開発に携わったスタッフが集まり、開発に懸けた想いを語りました。

隅本 平和出身とオリンピア出身の社員がチームとなって開発した自信作『ヤッターマン』が、いよいよパチンコホールに並ぶね。今回初めての試みとしてほとんど外部委託を行わず、すべて社内で開発したわけだけど。

岸 ほぼ社内だけで開発したことによって、プロジェクトはとても円滑に進みましたね。盤面デザインについて

注目!!

細かいディテールを追求し、精巧に作られたおもちゃ役物と、新考案された「すべ連」や連続予告などの演出の数々。『ヤッターマン』には大人の遊び心がぎゅしりとつまっています。



パチンコとしての本当のおもしろさを味わってもらえる台ができました。『ヤッターマン』の世界観を体感してください。プロジェクトリーダー 隅本好彦



過去最大の演出数はもちろん、CGムービーの美しさ、『ヤッターマン』の世界観を忠実に再現した演出も必見です。CGグラフィック 伊藤直思



ヤッターマンの立体感と質感を出すのに苦労しました。それ以外のパーツにも細部までこだわりましたので注目してください。盤面デザイン 岸 正明



歯車やLEDサイレンなど細かい役物一つひとつにもこだわりました。音と動きのバランスには自信を持っています。盤面設計 藤原淳平



リーチなどの演出比率はパチンコ制作では大事な部分。インパクトのある演出に熱くなれる台づくりを心がけました。構成管理 山口貴弘



©タツノコプロ



企画初期段階からの作り込みが、開発をスムーズに。この開発手法は、その後のプロジェクトへと活かされています。

は、これまではデザイン画を基に設計を進め、試作機を制作していたんですが、今回は早い段階からほぼ実機に近いモック(立体模型)を作成してから設計を行いました。これによってスタッフ全員が完成型のイメージを共有できて、結果的にモックからの大きな修正はほとんどなく、制作コストも抑えることができました。伊藤 今回の『ヤッターマン』は本格的な液晶映像としては初めて外部の映像会社を使わず社内のデザイナーで制作しました。そのおかげで、企画の初期段階から演出の作り込みや映像クオリティの追求ができたので、企画からの要望

にも最大限にこたえることができました。ただ、『ヤッターマン』は当社で過去最大の演出数なので、作る物量には苦労しましたけど。(笑)藤原 そういった企画の早い段階で作り込みをしたおかげで開発はスムーズに進んだ気がします。『ヤッターマン』以降のプロジェクトでもこうした開発手法はスタンダードになりましたね。山口 それもあると思いますが、僕はやっぱり制作現場の雰囲気ですごく良かったことも大きいんじゃないかと思うんです。



## 作り手の想いと親密なコミュニケーションが、1年半の開発期間を“楽しさ”へと変えました。

**隅本** 確かにそうだね。開発当初からスタッフ全員が「こういうパチンコ機を作りたい」という想いを共有できていたし、各担当がその目標に向かって同じベクトルで進むことができた。ヤッターマン世代の私のこだわりをみんなもわかってくれたし。

**藤原** 自分が納得のいかない所はその場でとことん話し合うことができましたし、**本当にチームワークは良かった**ですね。なにより最初に決めたコンセプトが最後までおれることなく進んだのは設計を行う上ではすごくありがたかったです。

**山口** それに今回のプロジェクトでは社内制作のおかげでスタッフ全員が集まる機会が多かったですよね。**スタッフ全員のコ**

**ミュニケーションが密だったからこそ問題点をスピーディーに解決できた**んじゃないかな。

**岸** 開発スタッフが本当に楽しみながら、和気あいあいと制作することができた気がします。

**伊藤** それぞれの担当のなかでは苦勞は絶対あったはず。でも、苦勞を苦勞と感ぜない勢いがこのプロジェクトにはありましたよね。

**隅本** 『ヤッターマン』は開発スタートから約1年半をかけ、**パチンコ本来の楽しさをとことん突きつめた、幅広い世代に楽しんでもらえる台を作ることができた**と思っています。皆さんにもぜひ遊んでもらえるとうれいすね。

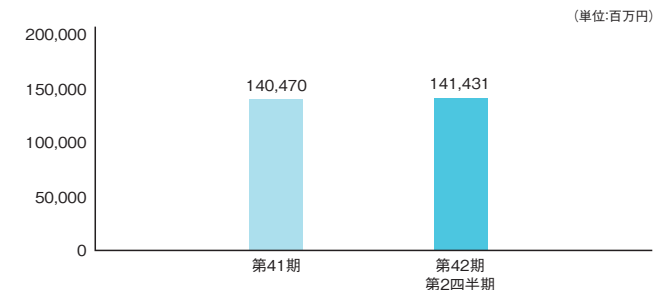
## ■ 連結財務諸表

### 四半期連結貸借対照表

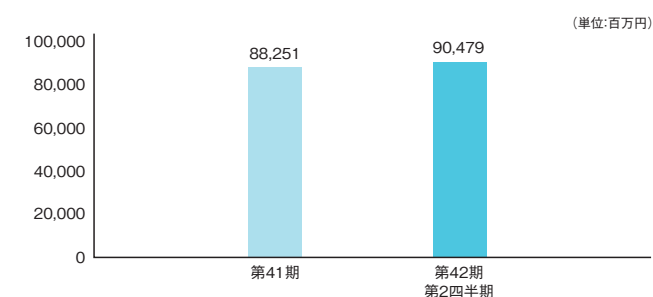
(単位:百万円)

科目	第41期 (2009年3月31日現在)	第42期 第2四半期 (2009年9月30日現在)
<b>(資産の部)</b>		
流動資産	76,034	73,991
固定資産	64,435	67,439
有形固定資産	31,086	31,712
無形固定資産	163	134
投資その他の資産	33,186	35,592
資産合計	140,470	141,431
<b>(負債の部)</b>		
流動負債	10,507	14,030
固定負債	41,711	36,921
負債合計	52,218	50,951
<b>(純資産の部)</b>		
株主資本	88,766	89,262
資本金	16,755	16,755
資本剰余金	53,063	53,063
利益剰余金	19,892	20,388
自己株式	△944	△944
評価・換算差額等	△544	1,171
新株予約権	29	46
純資産合計	88,251	90,479
負債純資産合計	140,470	141,431

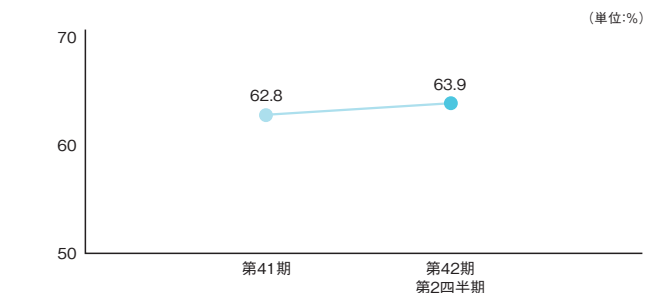
### 総資産



### 純資産



### 自己資本比率



四半期連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	第41期第2四半期 (2008年4月1日～ 2008年9月30日)	第42期第2四半期 (2009年4月1日～ 2009年9月30日)
<b>売上高</b>	<b>21,952</b>	<b>21,746</b>
売上原価	19,684	13,231
<b>売上総利益</b>	<b>2,268</b>	<b>8,515</b>
販売費及び一般管理費	9,889	9,850
<b>営業損失(△)</b>	<b>△7,620</b>	<b>△1,334</b>
営業外収益	5,806	4,858
営業外費用	291	657
<b>経常利益又は経常損失(△)</b>	<b>△2,105</b>	<b>2,866</b>
特別利益	210	22
特別損失	537	289
<b>税金等調整前四半期純利益又は四半期純損失(△)</b>	<b>△2,432</b>	<b>2,600</b>
法人税等	984	△366
<b>四半期純利益又は四半期純損失(△)</b>	<b>△3,417</b>	<b>2,966</b>

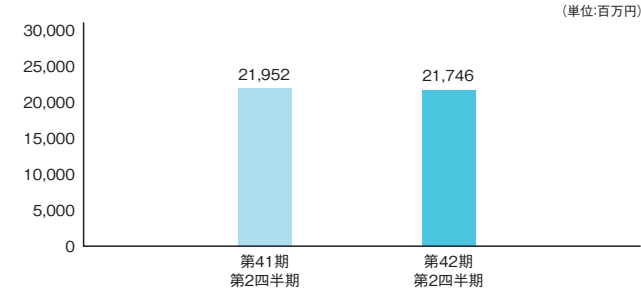
四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

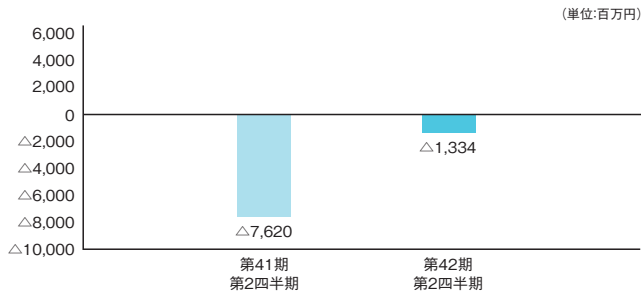
科目	第41期第2四半期 (2008年4月1日～ 2008年9月30日)	第42期第2四半期 (2009年4月1日～ 2009年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	7,710	9,472
投資活動によるキャッシュ・フロー	723	△1,289
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,556	△2,692
現金及び現金同等物に係る換算差額	117	15
現金及び現金同等物の増減額	10,108	5,505
現金及び現金同等物の期首残高	61,785	38,911
現金及び現金同等物の四半期末残高	71,894	44,417

Consolidated Financial Statements

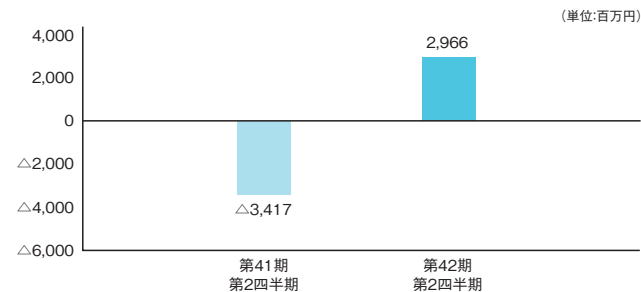
売上高



営業利益



四半期純利益



会社概要

商号 株式会社 平和  
(英文社名:Heiwa Corporation)

本社 〒110-0015  
東京都台東区東上野二丁目22番9号

URL <http://www.heiwanet.co.jp/>

創業 1949(昭和24)年

設立 1960(昭和35)年

資本金 167億5,500万円

役員  
代表取締役社長 石橋保彦  
代表取締役副社長 嶺井勝也  
専務取締役 諸見里敏啓  
常務取締役 町田徹  
取締役 吉野敏男  
取締役 池本泰章  
常勤監査役 井元敏勝  
監査役 頃安健司  
監査役 佐藤武志  
監査役 山田滋

事業内容 パチンコ機の開発・製造・販売  
パチスロ機の開発・製造・販売

事業所 本社、工場(伊勢崎)、北海道、仙台、高崎、東京、名古屋、大阪、広島、福岡 他20営業所

取引銀行 三菱東京UFJ銀行、みずほ銀行

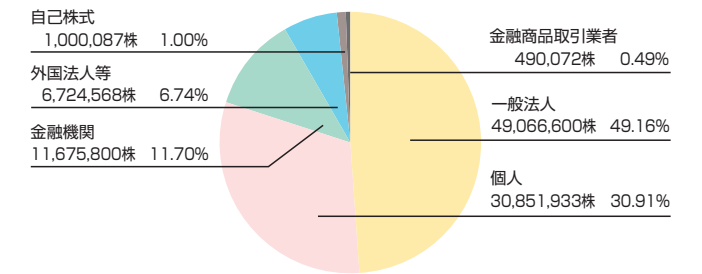
Corporate Data/Stock Information

(2009年9月30日現在)

株式の状況

発行可能株式総数 228,903,400株  
発行済株式の総数 99,809,060株  
株主数 15,150名

株式の所有者別状況



株価チャート(月足)

